

令和4年 11月28日(月)

あさひの日だまり

NO.28

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～3年生が社会見学へ行ってきました～

見守られて生きている私たち

3年生が24日(木)に町内の社会見学へ行ってきました。目的地は、辰野交番と辰野消防署です。下の写真はその時の様子です。



消防署の仕事のことを聞きました



パトカーに乗せてもらいました



防犯グッズに触らせてもらいました

交番も消防署も、一部屋や大きい部屋を用意して下さい、仕事の内容を丁寧に説明して下さいました。そのあとで、パトカーと消防車の運転席を見学させてもらったり実際に乗せてもらったりもしました。どちらでお仕事をされている方も、子どもたちのために本当に一生懸命説明をして下さいました。貴重な時間を割いて、子どもの目線に対応して下さい、傍らで見ていた私も頭の下がる思いがしました。

防犯や消火の際に使うものに直接触らせてもらい、近い距離でお話をお聞きして、子どもたちにとっては、何か遠いところの存在であった警察と消防が、ぐっと身近なものになったように思います。「自分たちの町の中で、いつも自分たちを見守ってくれているんだ」という安心感は、「地域の頼れる存在」という意識に結びついたに違いありません。もしかすれば、「自分もこんな仕事についてみたい」という気持ちになった子供もいたかもしれません。

警察と消防署の方々には心から感謝申し上げます。

～読書旬間です～

新しい知識と感動を本からもらえたら素敵です

現在本校では読書旬間の最中です。朝読書がんばってね、と声をかけたら、「ぼく、本読むのが嫌いなんだよね」と返事が返ってきました。確かに読書にも好き嫌いがあると思います。教室の中を見て見ると、時間があればすぐに本を取り出して読んでいる子どももいます。そうかと思えば、朝読書の時間の最中でも、本を出さずに何かごそごそやっている子どももいます。本の好き嫌いこそ、個人差が大きいように思います。

私も決して本好きな方ではありませんでした。そんな子どもを心配して、親がたまに本を買ってきてくれました。その中で、「片耳の大鹿」「ロビンソンクルーソーの冒険」などは、本って結構面白い。と私に思わせてくれました。

今でも、少し時間ができると、本屋さんで立ち読みをすることがあります。何気なく手に取った本が面白くて購入して読むこともあります。学校の机の上にも本をおいて、時間があると少し読みます。子どもたちにとって、特に本との出会いが少ない子どもにとって、この旬間がちょっとした出会いのチャンスになってくれたら素敵だなと思います。



廊下には先生方の推薦本のポスターが掲示されています

～人の話を聞くこと～

学ぶことのスタート地点です

先週は、出張があったり、隣組のご葬儀があったりして、子どもたちの活動を見られる時間があまり先週はその機会をなかなか作れず、申し訳ない思いで過ごしていました。そして結局、数日遅れのお便りとなってしまいました。今日は、スペースをいただいて、私が日ごろ感じていることを少し書かせていただこうと思います。それは、「他人の話を聞く」ということです。

私は、学習のスタートは、まず話し手の話をちゃんと聞けることだと思います。聞き取った話の分量と深さによって身につく知識は大きく違ってくるように思います。

私は昔から、人の話を聞くことが苦手でした。「ちゃんと前を向きなさい」「何落書きしているの」としょっちゅう注意を受けていました。

ただ、今は、話をしている人の方を向いて、ちゃんと話を聞いているつもりではいます。目と耳は相手の方に向かっていていると思っています。昔の自分と今の自分ではそのところが少し違っています。それにはちょっとした理由があります。

それは、小学校だったか中学校だったか記憶は定かではないのですが、先生のこんな言葉が原因でした。「先生が話をしているときに、先生の方を向いてうなずきながら聞いてくれていると、先生の気持ちが届いているんだなと思って安心したり嬉しくなったりするんです。先生の方を話しの間、下を向いたりよそ見をしたりしていると、先生は悲しい気持ちになります」という言葉でした。

私は、「先生も私たちと同じように、教室の中で、嬉しいなとか悲しいなとかいう気持ちになることがあるんだ」と思って、それまで感じていた先生との距離が急に近くなったように感じました。そして、「その思いには答えなくちゃいけない」と子どもながらに思ったことを覚えています。

私は、先ほどの先生の話之机に、話している人は願いをもって話している。ということを感じながら話を聞くようになりました。それまでの私とその後の私では、授業中の姿は明らかに違ってはいたはずで。

初めの私は人の話に集中できなかったとお話ししましたが、先日、本を読んでいたら、こんな文章に出会って「はっ」としました。

「学習の最初の一步は、話し手に耳と気持ちを向けることである。では、どうやってその力を子どもに身につけさせるかと言えば、まず、一番身近にいる保護者が、子どもが話しかけたときに耳と心に向けて話に聞き入り、自分の思いを返してあげることが大切である。そうすることが、やがて学校で子どもがひとの話に自然に耳を傾けられるようになる」という文章です。

そういえば、わが家は5人家族でしたが、家業は農業で、それ以外にも両親は仕事をしており、平日も週末も、大変忙しそうでした。そういうわけで、家でゆっくり私の話を私の顔を見ながら聞いてくれる機会が少なかったかもしれません。それが原因かどうかはわかりませんが、小学校時代の私には、人の話に耳を傾ける体の構えができていなかったのです。

そう考えると今でも心に残っている担任の先生のあの一言は、私にとってとても貴重な一言であったと思います。

ご家庭の中で、お子さんが「ねえねえ」と話しかけてくることがあると思います。そんなときはどうぞ手を止めて、ひざを折って、子どもの目を見ながら、うなずきながらお話を聞いてあげていただけたらと思います。そのことがやがてお子さんの学力へも結びついていくかもしれません。